

お正月のことわざ PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/264/2021_2022__E3_81_8A_E6_AD_A3_E6_9C_88_E3_c105_264270.htm 日本には多くのことわざがありますが、ここではとくにお正月にまつわるものをご紹介します。ひと足お先にお正月分を味わって、のタネにしてみてもいかが？ ■ ごまめのぎしり では田作りのことをごまめという。(ひしこ)の乾したもの。田植えにして、年を祈って祭りをするが、そのに用いるのが田作りである。小さくても尾つきのを祝に用いる意である。正月の祝膳にも、この祝を利用するのは、やはり年を期待する意を含んでいる。田作りそのものは、上ではないから、することが多いのでそれに反して立派なじゃないか、と弁している言である。田作りを田の肥料とし、それを用いて年をことほぐという解はあたらない。 ■ 初のを食いたい に初物というのもおかしいが、それでも人情として、初物は欲しい。人は何でも初物を望む意。 ■ がゆの供 正月十五日に、と小豆を入れたかゆを作る。その一部を残しておき、十八日に食べておくと夏、毒虫にさされないといういいつつたえがある。 ■ と酢は家に似る その家の好みにより、特有の形や味ができあがるものである。 ■ は乞食にかせ は大名にかせるは何度も返してく方がいいがはそうしない方がいい。そこで、せかせかしている乞食、ゆったりとえている大名を照的に出したのである。また、茨城地方では「は大名にかせる、豆は乞食に炒らせよ」という。をくより、豆を炒るのはさらに忙しくしなければならないので、この言い方が

できた。 ■ 腹三日 腹七日ともいう。腹持ちのいいこと。
■ は（あん）でかたくなる 他のものの影で、物事がわるたとえ。 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com